

「食物アレルギー」学べるゲーム

食物アレルギーについて学ぶカードゲーム「らんらんランチ」の写真を日本生協連出版部から発売された。アレルギー症状を起こさずに、いかにバラエティー豊かなランチメニューをそろえるかを競う。遊びながら理解を深められ、子どもにも大人にも役立つと思う。

開発したのは、順天堂大医学部公衆衛生学教室助教の堀口逸子さんのグループ。厚生労働省の補助で、食物アレルギーの情報を子どもたちにも正しく伝えるのかを研究し、その成果を商品化した。堀口さんは「好き嫌いで『食べない』ことと、アレルギーを起こすため『食べてはいけない』ことの違いを、患者や家族だけでなく、



周りの人にも知ってほしかった」と話す。説明だけでは忘れがちなため、繰り返し遊べるゲームを考えたという。

3〜5人で遊び、使うカードは2種類70枚。小麦や卵などアレルギー症状を起こすアレルギーが1種類ずつ書かれた「アレルギーカード」と、ハンバーグやエビチリなど料理名が書かれた「メニュー

カード」がある。

プレーヤーには、3枚ずつアレルギーカードが配られ、そこに書いてあるアレルギーが入った料理は食べられない。いわば患者を疑似体験するわけだ。

プレーヤーは、メニューカードを選んだり、交換したりして、5日分のランチメニューを作る。作ったメニューが、症状を起こさずに食べられるか、和食、洋食、中華など多彩かどうかで勝敗を決める。

すでにゲームを導入した小学校や保健所があり、「いろいろなアレルギーがあると知ることができた」「楽しかった」などの感想が堀口さんのもとに届いているという。

価格は1箱800円(税、送料別)。日本生協連出版部へファクス(03・5778・8051)で注文できる。